



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉

2024年03月04日 第1157号「週刊五十嵐レポート」

DXとリスキリング

「DX」をデラックスと読んだ社長がいた。笑うことはできない。ちゃんと説明できる人は少ないのでは。「DX」とは、Digital Transformationの略。Transformationとは「変形」「変質」「変容」という意味。日本語では、「デジタルによる(ビジネスや生活の)変容」を意味する。Trans-がしばしばXと略されることから、Digital Transformationの略語としてDXが定着するようになった。

また「リスキリング」とは、職業能力の再開発、再教育のことを意味する。企業のDX対策において、新たに必要となる業務・職種に順応できるように、従業員がスキルや知識を再習得するという意味で使われることが増えている。デジタル分野に限らず市場のニーズあるところに学びの対象がある。プログラミングやビッグデータの分析から、マネジメントやマーケティングに関するものなど、内容は多岐にわたる。

3月2日付日経新聞、「求められるデータ活用」という記事。プロ野球において、コーチ人事に新しい潮流があった。ソフトバンク、DeNA、ロッテの3球団の人事に共通するのは、データ分析の素養のある人物を登用している点。野球の様々な数値データを事細かに測定できる機器を各球団導入している。ただ、導入するだけでは意味がない。得られたデータを読み解き、選手にフィードバックする必要がある。これまではそうした能力のある人はアナリストという肩書がもう一步進んでコーチという役職に起用された。

データ揃っていない時代、コーチングのベースにあったのは、個人の経験と感覚。元名選手の「自分はこうだった」「こうすればこうなるはず」という言葉。今は、データ活用の有用性を知る選手に対して、科学的な論拠を持ったアプローチが欠かせなくなった。

メジャーリーガーのダルビッシュ、前田、千賀投手の話を知ると、登板日の3日前から対戦相手のデータを読み解く。日本ではなかったと言う。これが我々実業にも浸透していくだろう。小さな会社ではそもそも「データ」が少ない。もしくは社内には「データ」はあるのだが、それがどこにあるのかわからず、取り出せない。取り出せたとしても分析できない。基礎となる土壌をつくっていくことが第一歩。

ちょっと
気になる出来事

3月1日付日経新聞「大機小機」より。

時代の反転をみるようだ。台湾積体回路製造（TSMC）が日本の生産拠点となる熊本工場の開所式を催した。時を同じくして日経平均株価が34年ぶりに史上最高値を更新した。

振り返れば、バブルの頂点だった89年当時、日本の半導体産業はまさに世界を席巻していた。日本メーカーは半導体の中国生産へカジを切る。90年から。ここが日本にとって下り坂が始まる「峠」だった。半導体は国際競争力が低下、同じくして株価崩壊が始まった。

それから34年を経て、風向きが180度転換してきたのが今。日本が工場を海外に出すのではなく、生産拠点として日本が選ばれる時代に。

「ニイハオ中国」から「コンニチハ日本」へ。海外マネーは、停滞する中国から日本を再評価する買いが株価を押し上げた。89年の峠を下にみて、新たな頂きを目指す時代に日本は入った。

10年後、日本が復活したターニングポイントは2024年だったと言えるように進んで行きたい。



一口メモ
知識

試行の時

或（ある）いは躍（おど）りて淵（ふち）に在（あ）りとは、自ら試みるなり。

ある時は跳躍し、ある時は深く内省して自らを試みる。

目的達成のために、必ず「試行」が必要である。

「試行」とは、多少足らずと思うことにも取り組んでみること。

自分を試し、ここまでやって来たことが間違っていなかったかと省みる。

それによって自分自身を試験・評価し、足りないところを補っていくのである。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

Tel.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

